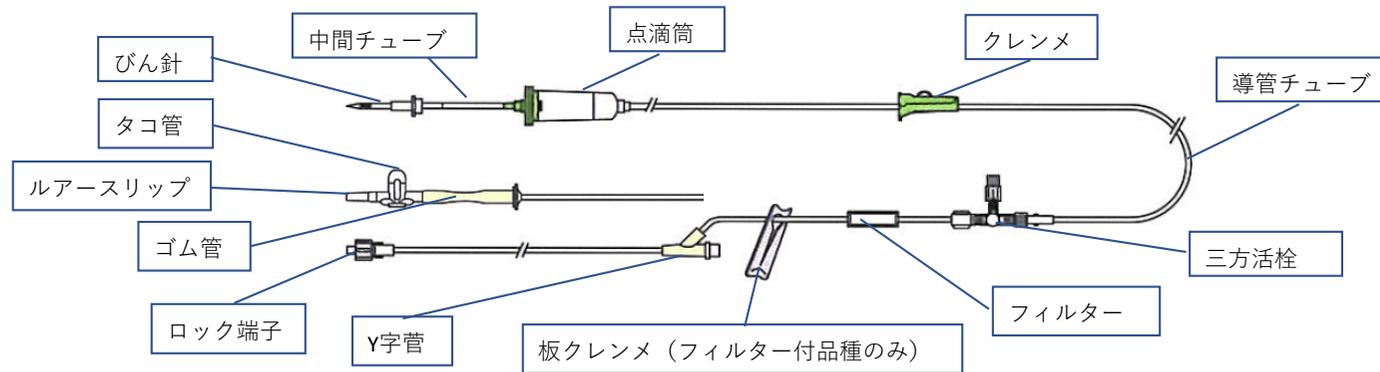


輸液セット補足資料



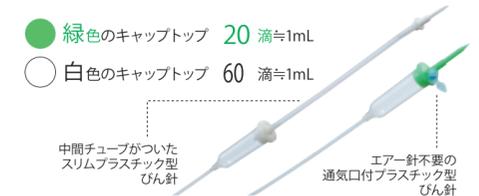
①びん針

- ・ 中間チューブ付 : びん針と点滴筒の間にチューブがあるもの。1つの薬液バックに複数本穿刺する場合にお勧め（獣医療では点滴筒がブラブラと揺れてしまう為あまり好まれない）。
- ・ 直結型 : びん針と点滴筒が繋がっているタイプ。
- ・ 直結型（通気口付） : びん針と点滴筒が繋がっているタイプ。通気口付はプラスチック製の薬液ボトル等にも使用できるが、危険性医薬品（特に揮発性の高いもの）にはお勧めできない。



②点滴筒

- ・ 20滴≒1mL（キャップトップ緑） : 一般的なもの。過去にはメーカーによって15滴≒1mLや19滴≒1mLもあったが、人体用は20滴≒1mLに集約されている。
- ・ 60滴≒1mL（キャップトップ白） : 小児用とも呼ばれる。1滴1滴が小さく、少ない流量での調整が可能（単価が高く、輸液ポンプで使用される場合はメリット無し）。
- ・ 定量筒付60滴≒1mL（キャップトップ白） : 定量筒内で輸液量の設定及び注射薬の濃度調整を行う事ができる（人体では新生児や未熟児で使用）。



③クレンメ

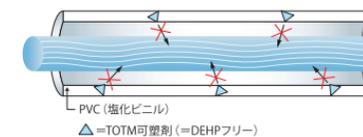
- ・ 点滴を止めたり、流量を調節するのに使用。基本的に各メーカー『緑』が20滴≒1mL、『ピンク』が60滴≒1mL。ポンプ用やチューブ材質によっては別の色を使用している場合もある。



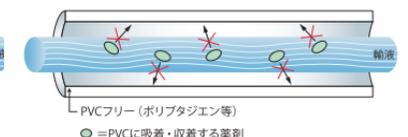
④導管チューブ

- ・ 基本的に各メーカー共に材質はポリ塩化ビニル：PVC（DEHPフリー）で、自然落下用は固く、ポンプ用は柔らかい。PVCに吸着してしまう薬剤もある為、その際はPVCフリー（ポリブタジエン等）の輸液セットを使用。

DEHP可塑剤を使用していないので、薬液による可塑剤の溶出がありません。



PVCフリー輸液セットはPVCに吸着・取着する薬剤の投与に適しています。



輸液セット補足資料

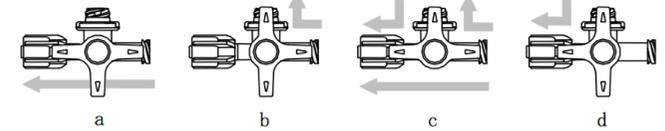
⑤三方活栓

- ・シリンジで薬剤を混注する際や、複数の輸液ラインで輸液を行う際に使用。



コックを回すと流路を変えられる

図 1



⑥Y字管

- ・注射針を用いて薬剤を混注する際に使用。



ゴム栓になっているので注射針を用いて薬液を混注できる。

⑦輸液用フィルター

- ・異物（混注する時の酒精綿、アンプルカットのガラス片、コアリングでできてしまったゴム片等）や薬剤の沈殿物、細菌等を除去する為のフィルター。薬剤によってはフィルター自体に吸着してしまい、使用出来ないものもある。また輸血セット（輸血用）のフィルターとは異なるので注意。

⑧タコ管（ゴム管）

- ・輸液ライン内に発生した気泡が患者側に流れていかない様にする為の部材。近年では必要性が無いとの事から廃止傾向にある。タコ管付にはゴム管もセットでついているものがほとんどで、ゴム管はタコ管と導管チューブを繋ぐために使用される部材である。その為、ゴムだからといってゴム管に注射針等を用いて混注するのはNG。また、輸液ポンプで使用した場合、チューブ内圧が瞬間的に高まるとゴム管が外れてしまう恐れがある為、輸液ポンプでの使用には適さない。

でっぱり部分は空洞になっており、気泡を溜められる（エアートラップ）



茶色いゴム部分は針を刺すためのものではない。輸液ポンプで使用すると瞬間的なチューブ内圧の上昇で外れる危険性有。

⑨ルアースリップとロック

- ・ロックは留置針や延長チューブ（ロック対応のもの）と外れないようにすることができる。特に危険性医薬品を使用する場合はロックのものが推奨されている。※トップ輸液セットのロックはフラッシュロックとなっておりチューブ側にロック端子が外せる為、翼状針のキャップ付チューブ部にも接続できる。

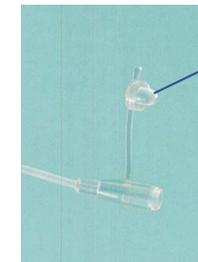
ロック端子のスライド機構

未熟児や乳幼児など、ロック端子による固定が難しい場合には、ロック部をチューブ側にスライドさせることができます。

ロック先・ルアー先を選択できます。



テーピングとドレッシング材でしっかり固定できます



翼状針のキャップ部分がロック端子の邪魔になる。